

地域銀行の平成 27 年 3 月期決算の概要

1. 損益の状況（銀行単体ベース）

- 実質業務純益は、役務取引等利益が増加したものの、資金利益の減少等により、前年同期に比べ 2.7% の減少。
- 当期純利益は、与信関係費用が引き続き減少したこと等により、前年同期とほぼ同水準。

（単位：億円）

	25 年 3 月期	26 年 3 月期	27 年 3 月期	前年同期比
業務粗利益	48,544	47,808	47,547	▲ 261
資金利益	41,048	41,048	40,242	▲ 806
役務取引等利益	4,790	5,097	5,550	453
債券等関係損益	1,959	926	909	▲ 17
うち、債券等償却	▲ 143	▲ 41	▲ 24	17
経費	▲ 31,144	▲ 31,171	▲ 31,357	▲ 186
実質業務純益	17,400	16,636	16,190	▲ 446
与信関係費用(※)	▲ 3,650	▲ 1,788	▲ 937	851
株式等関係損益	▲ 812	1,256	1,158	▲ 98
うち、株式等償却	▲ 722	▲ 63	▲ 28	35
当期純利益	8,157	10,709	10,629	▲ 80

※ 与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。

（参考）

	25 年 3 月期	26 年 3 月期	27 年 3 月期
貸出金（末残）	219.2 兆円	225.5 兆円	233.8 兆円

2. 不良債権の状況（銀行単体ベース）

- 不良債権額は 26 年 3 月期に比べ減少、不良債権比率も低下。
（いずれも平成 11 年 3 月期の金融再生法に基づく開示以降で最低）

	25 年 3 月期	26 年 3 月期	27 年 3 月期
不良債権額	6.8 兆円	6.2 兆円	5.6 兆円
不良債権比率	3.07%	2.72%	2.38%

3. 自己資本比率の状況（銀行単体ベース）

- 国際統一基準行の総自己資本比率、普通株式等 Tier1 比率は、26 年 3 月期に比べ上昇。
- 国内基準行の自己資本比率については、貸出金の増加を主因とするリスクアセットの増加等により 26 年 3 月期に比べ低下。

（国際統一基準行：10行）

	26 年 3 月期	27 年 3 月期
総自己資本比率	14.28%	14.64%
Tier1 比率	12.63%	13.00%
普通株式等 Tier1 比率	12.59%	12.96%

（国内基準行：96行）

	26 年 3 月期	27 年 3 月期
自己資本比率	11.04%	10.50%

（注1）記載金額・比率は、四捨五入して表示。

（注2）27年3月期の集計対象は106行（地方銀行64行、第二地方銀行41行及び埼玉りそな銀行）

（注3）与信関係費用・不良債権の計数には、再生専門子会社分を含む。